



諮問内容

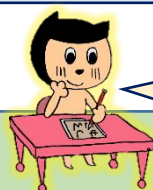
今後の町田市生涯学習センターのあり方について

1. 目指すべき姿について

2. 効率的・効果的な管理運営手法について

答申の構成及び概要

1. 検討の経過と現状



将来を見据えながら時代の変化に対応していけるよう、目指すべき姿や効率的・効果的な管理運営手法について意見交換を重ね、併せて町田市が実施していくべき生涯学習支援についての再検討を行い、本答申をまとめました。

(1) 組織体制の推移と町田市生涯学習センターの設立

生涯学習部の変遷の過程や、附属機関での検討の経過を整理しました。「生涯学習支援にかかる機能」を担う組織として、2012年に町田市生涯学習センターが設置されました。

(2) 答申及び報告書

町田市生涯学習センターに関する答申及び報告書は、附属機関等によってこれまでに8つが作成され、現状や課題の分析を行うとともに、その時々に必要な指摘がされてきました。

(3) 課題分析

①事業の整理と生涯学習支援にかかる機能の充実

町田市生涯学習センターとして比重を置くべき事業を整理し、新たな事業に取り組むための余力を生み出す必要があります。

②学習機会や情報発信の機会の充実

誰もが学べる環境をつくるため、場所や時間の制約なく学習機会につながるよう環境を整備する必要があります。

③社会的課題の解消につながる学びの提供

社会環境の変化に対応して市民が豊かな人生を送ることができるよう、社会的課題を的確に捉えた学習を適宜提供する体制を整える必要があります。

④「町田市生涯学習センター」の認知度の向上

多くの市民に認知され、愛着を持ってもらうためのきっかけとなるよう、施設名の整理や改称の検討が必要です。

⑤専門性の発揮

生涯学習に関する専門性を備え、それを発揮できる民間事業者などの活用を検討する必要があります。柔軟な勤務体制や臨機応変な支出が可能な民間事業者のメリットを十分に発揮してもらうための工夫が必要です。

⑥見直しの確実な遂行

見直しを進めるための実行体制を確実に整える必要があります。

3. 新たな町田市生涯学習センターに向けて

(1) 目指すべき姿について

【運営理念】 学びに出会う機会と学習成果をいかす機会を提供するための中核を担います。

①事業の整理、及びリソースの再配分

今後重点を置く事業を明確にしたうえで、事業の整理を行い、生み出したリソースを再配分すること。全体コーディネートについて再認識すること。“ハブ機能”をしっかりと担うこと。

②デジタル技術の活用推進

場所や時間の制約なく学べる環境を充実させるため、積極的にデジタル化を推進すること。学ぶことに支援を必要としている方に向けて、身近な地域での学びを提供するなどの配慮をすること。

③社会的課題への迅速な対応

新たな社会的課題に迅速に対応するため、事業内容の精査や新設及び廃止の検討を確実に行う体制を整えること。生涯学習センター運営協議会から事業の新設及び廃止や全体のバランスに対する意見を聞くこと。

④名称の整理

町田市生涯学習センターが設立された際に重点を置くべきとされた「生涯学習支援にかかる機能」の充実を確実に行うことを示すため、名称の整理を行うこと。認知度の向上及び施設への愛着の形成につながるよう工夫すること。

(2) 効率的・効果的な管理運営手法について

①民間活力の導入

“行政でなければ担えない機能”と“民間のノウハウが活かせる機能”を整理した上で、後者については民間活力を導入していくこと。

<民間活力導入の留意点> ◆町田市生涯学習センターの役割を十分に理解できる事業者を選定すること。 ◆事業者からの提案を採用する仕組みを設けること。 ◆運営理念に沿っているかなど、チェックする機能を設けること。 ◆市民・行政・事業者が協働して町田らしい新たな価値を創造できる仕組みを検討すること。

②効率的・効果的な運営を推進する実行体制の整備

本答申を踏まえ、実行計画の作成や、生涯学習組織の改編を行うなど、確実に見直しを進めること。

町田市生涯学習センターがどのような姿を目指すべきか検討し、運営理念としてまとめました。この運営理念を実現するための意見を、①から④としてまとめました。



町田市生涯学習センターの運営理念を実現するための効率的・効果的な管理運営手法について検討し、①及び②としてまとめました。



町田市が実施していくべき生涯学習支援について再確認しました。

2. 町田市における生涯学習支援とは

(1) 学びの環境の充実

市民が主体的に学ぶことで、豊かな人生を送ることができるよう、学びに出会う機会を充実させることが重要です。多様な学びの入口を提供することで、学ぶことに支援が必要な方などが、学習につながりやすい環境を整えます。身近な学び、デジタル技術を活用した学び、社会的課題の解消につながる学びを適宜提供することが大切です。

(2) 学びのネットワーク

学びたい意欲のある人が学びにつながりやすくなるよう、関係機関や各種団体、他部署がどのような学習支援の取組を行っているのか情報収集し、発信することが重要です。収集した学習情報を体系化し、多様な媒体で発信することで、より効果的な学習の支援を行うことができます。

(3) 学び合いの輪の創出

学びを深めた人たちがその成果をいかす機会を得られるよう、学びを循環させる仕組みを整えることが重要です。学びの成果をいかす機会をコーディネートすることで、地域活動への参加を促進し、市民同士の学び合いの輪を広げることができます。

(4) 地域文化の創造・継承

文化・歴史資源・地域資料を活用した学びを提供することで、町のブランド力を高めるとともに、市民の郷土への愛着の醸成につなげることができます。この地域に住んだ人々の歩みを知り、未来を豊かに創造していくために、文化・歴史資源・地域資料を市民全体の財産として大切に継承していく必要があります。